全日本ユースが優勝

後半33分 江崎が決勝ゴール

県高校選抜の先制も及ばず

SBS杯国際J・サッカー

＜最終日＞

日本サッカー協会、静岡新聞社・SBS静岡放送主催、'83SBSカップ国際ジュニアサッカー最終日は、二十一日、県営草薙球技場で3位決定戦と決勝を行い、全日本ユースが優勝を飾った。

▽決勝
全日本ユース 2（1－1、1－0）1 県高校選抜
▽得点者 【全】谷中（補＝久保山）江崎（補＝なし）【県】三浦（補＝なし）
▽交代【県】笠井・静岡西（武田）
【評】大榎、堀池、三浦ら七人のユース代表が先発メンバーに名を連ねた県選抜。したがって「ユース代表の東西対抗」と岡村・全日本ユース監督が表現したように両チームの戦力は全く互角で内容に富んだ試合を繰り広げた。

先手を取ったのは、県選抜。前半6分、全日本陣営左サイドでボールをキープした武田が、大きくゴール前へ振る。芦沢が合わせ、いったんは混戦となったが、武田が全日本DFと激しく競り、こぼれたところをフォローした三浦が手堅くプッシュした。だが、全日本は前半13分、久保山が得意のドリブルで中央を進み、谷中にパス。これを受けた谷中がゴール左隅にけり込んで、同点とした。

県選抜は長谷川が右サイドをスピード豊かなドリブルで突破、三浦が抜群のキープ力でチャンスをつくる。大榎らの中盤も持ち味を生かし、馬場、畑の攻撃参加も効果的だ。これに対して、全日本も谷中が左サイドから盛んに攻撃を仕掛け、久保山もテクニシャンぶりを発揮する。木原が県選抜のCF武田をぴったりマークすれば、山本が果敢にオーバーラップした。

がっぷり四つに組んだ攻め合いは延長入りを思わせたが、タイムアップ2分前、全日本は決勝点を奪う。県選抜ペナルティーライン手前正面でFKを得た全日本は、谷中が直接、シュート。球勢に押されてGK藤田がわずかに前にはじくと、飛び込んだ江崎がタイミングよくプッシュしてゴールを割った。

"東西対抗"とはいえ、目の丸をつけた全日本。それだけに「どうしても勝ちたかった」（岡村監督）という全日本の意地の勝利だった。

【全日本】4・3・3
GK 小山（静岡学園）
DF 木原（大崎）
佐藤（海洋大）
佐藤（水産）
松本（学）
越島（〃）
神原（〃）
MF 瀬（新城）
久保（中央工）
江藤（法政大）
谷山（大学）
FW 後藤（日大）
中島（市川）
K 田中（新潟）
K 山崎（商）
K 山田（大業）
H 中（法政大）
18 谷（工）
7 藤（ジャ）
8 武（ジ）
10 三
5 浦
14 馬
9 場

【県高校選抜】4・3・3
GK 藤田（清水商）
DF 伊藤（静岡学園）
川（〃）
馬（〃）
畑（〃）
堀（東海大一）
池（清水商）
大榎（東海大一）
沢（清水商）
芦（清水商）
長（静岡学園）
武谷
三浦

全日本ユース―県高校選抜　後半33分、谷中のFKをGKがこぼしたところを、江崎（右）、タイミングよく飛び込み、決勝ゴールを奪う＝県営草薙球技場で

（静岡新聞１９８３年８月２２日朝刊）